

会議録

会 議 の 名 称	令和 8 年度 第 1 回 徳島市上下水道事業経営審議会
開 催 日 時	令和 8 年 7 月 8 日（水）午前 9 時 3 0 分
開 催 場 所	徳島市上下水道局 第十浄水場管理本館 2 階 多目的スペース
次 第	1 開会 2 会長及び副会長の選任 3 諮問書の交付 (1) 適正な水道料金のあり方について (2) 次期水道ビジョンの策定について 4 議事 (1) 次回以降の会議の公開・非公開について (2) 水道事業の現況について 5 施設見学及び事務連絡 6 閉会
出 席 者	【委員】 （五十音順） 浦上委員、小川委員、黒田委員、坂田委員、瀬戸委員、多富委員、田中委員、 野口委員、真鍋委員、湯浅委員 計 1 0 人 【事務局】 石川上下水道事業管理者、渡次長兼水道維持課長、森次長、小林総務課長、 吉田経営企画課長、山根お客さまセンター所長、山本水道整備課長、 勝野浄水課長、徳永工事検査監、事務局職員 6 人 計 1 5 人
傍 聴 者 数	1 人（報道関係者）
資 料	・ 諮問書 ・ 水道事業の現況について
会議の要旨	
1 開会	➡（開会に際して事務局から次の事項について事前説明） ① 本日の会議は、会議録の作成及び広報資料作成のため、録音及びカメラ撮影を行うこと。→ <u>全委員了承</u> ② 報道関係者よりカメラ撮影の要望があったこと。→ <u>全委員了承</u>

(1) 開会のあいさつ (2) 委嘱状の交付 (3) 委員紹介 (4) 職員紹介	【事務局】（上下水道事業管理者） 皆様には、お忙しい中、本審議会の委員を快く受けていただき、お礼申し上げます。 本審議会は、条例に基づき、上下水道事業の経営に関する重要な事項について、専門的な知見や幅広い観点から審議をするため設置している。 皆様には水道事業における水道料金やビジョンの重要な審議をお願いすることになる。 将来にわたり、安全・安心な水道水を安定して市民にお届けするため、皆様の活発な議論や貴重な御意見、御提言をいただけるようお願い申し上げます。 ➡（時間の都合上、手交はせず机の上に置くことで交付に代える。） ※任期：令和8年7月1日～令和10年6月30日 ➡（事務局より委員名簿順に紹介） ➡（次長以下、水道部門の所属長が順次自己紹介）
2 会長及び副会長の選任 (1) 会長・副会長の互選 (2) 会長・副会長あいさつ	➡（委員の推薦により、浦上委員を会長に、真鍋委員を副会長にそれぞれ選任） 【会長】 御紹介いただいたように、経営学部にも所属しながらも水道、下水道を研究している。是非皆様と徳島市の水道、下水道について議論させていただけたらと思っている。どうぞよろしくお願いいたします。 【副会長】 水道ビジョンの策定の頃から携わらせていただいております、そういったこともあっておそらく副会長の任をいただいたと思っている。会長をお支えして頑張っていきたいと思っているので、どうぞよろしくお願いいたします。
3 諮問書の交付	➡（上下水道事業管理者が諮問書を読み上げて会長に手交） 《諮問事項》 ① 適正な水道料金のあり方について ② 次期水道ビジョンの策定について
4 議事	➡（議事に入る前に事務局から次の事項について事前説明・提案） ① 会長が本審議会の議長となること。 ② 半数以上の委員の出席により、会議が成立していること。 ③ 本日の会議は、特に非公開情報が含まれていないため、原則公開であること。 ④ 実際に審議が始まる次回以降の会議の公開・非公開については、審議会の議

(1) 次回以降の 会議の公開・非 公開について (2) 水道事業の 現況について	事運営事項につき、本審議会において決定することが適切であり、また、円滑な審議会の運営に資するため、審議会の公開・非公開については、会議の開催前（周知の時点）には決定している必要があると考えていること。そこで、<u>次回以降の会議の公開・非公開については、徳島市の関係条例に基づき、会議の内容に応じて、あらかじめ、会長と事務局とが協議して決する</u>ことを了承いただきたいこと。【事務局提案】 ⑤ 会議録は、事務局において発言者名を伏せた形で作成し、各委員が確認したあと、ホームページで公開すること。 ⑥ 配付資料の確認その他事務連絡 ➡ <u>（事務局提案どおり可決）</u> ➡（事務局より資料「水道事業の現況について」に沿って説明） 質疑応答 【A 委員】 私も経営をしているので、やはり財政収支の見通しがとても気になる。 今まで黒字だったのが今年度から赤字になり、これから赤字がどんどん増えていっている。この数字だけを見たら不安になる。経営改善に向けた取組みのお話しもあったが、人員の削減ばかりでも駄目だと思うし、この数字についてどのように考えているのか。 【事務局】（経営企画課長） この先の収支の見通しであるが、近年の物価上昇や労務単価の上昇により、費用は増加していく傾向にあると予測している。一方、水道事業の根幹的収入である給水収益は、ここ3年ほどは僅かに落ち込み幅が鈍化しているものの、この先も減少していくものと予測している。 そうした中、我々が危惧しているのが建設投資である。その投資額のほとんどは給水収益で賄っており、この先、給水収益が減少していくことにより投資額に影響してくると思っている。いま考えていることは、投資額に影響を及ぼさないよう企業債（国からの借入れ）を以前より少し増やして、それを財源にしていく。当然補助金も活用していくのだが、できるだけ投資額を落とさないように計画を立てている。この先についても、新たな財源を確保していかなければならないと考えている。
---	---

【A 委員】

企業にも（水道水を）売れるのか。

【事務局】（経営企画課長）

現在、企業にも給水はしている。

【A 委員】

その売り上げを増やせるような見込みはないのか。

市民の水道料金をできるだけ高くしないようにお願いしたい。

【会長】

（補足として）企業には売っているが、（質問の件は）都市計画とか産業の企業誘致の話しになるので、上下水道局というよりも徳島市の産業振興などの部署にお願いして誘致していただくしかないし、今いらっしゃる企業にもっと水の使用を促したとしても、それで売れるわけではない。

あと、皆さん節水を積極的にやっているという意識はないのだが、例えばシャワーヘッドをナノバブルに替えたとか、最近トイレを新しくしたとか、これらはとても節水になる。だから、一件当たりの水の消費量がどんどん落ちて、結果的に水道料金の支払額も減っているんで全体としての収入も落ちている。一方、費用はどんどんかかるという難しさがあり、財政収支はとても厳しくなる。皆さんは、（水道料金を）安くしてくれ安くしてくれと、今も御希望をいただいたが、これからそれとは真逆の議論をしていかなければならない。

【B 委員】

これからどう売り上げを上げていくかということで、販路を広げていくという意味で、せっかく美味しい水がたくさんあるのだから、水道を通してだけでなく、備蓄用とかストックできる徳島市の水があるとすごくいいなと思う。

今後、溜め込めるような形での販売として、ペットボトルやウォーターサーバーの水など、販路拡大みたいなものも選択肢として入れていくと良いのかなと思う。

それともう一つ、13 ページの 5 番の重要給水施設の中で、被災後もしっかりと水を届けられるようにということで、給水優先度の高い施設の中に広域避難場所という記載があるが、広域避難場所の中には避難所となり得るような所も含まれているのか。中長期的に生活を必要とする方が集まるような場所もこういった所に含まれているのかを教えていただけると、安心できる要素が増えるのかなと思う。

【事務局】（経営企画課長）

ペットボトルの販売については、数年ほど前に販売したらどうかという意見があり、調べてみると、上下水道局の水を使って販売できる企業が徳島にはなかった。当時、県外には販売できる企業はあったが、コストが非常に高くなり、採算に合わないということで見合わせた経緯がある。

その代わりではないが、水道水をもっと身近に感じていただくために、来月に3か所目の給水スポットを設置する。ペットボトルではなく、（環境に配慮した）マイボトルを持って来ていただき、そこで冷たい水を飲んでいただく。徳島市の水は美味しいので、そういうところから皆さんに親しんでいただき、水を飲む機会を増やしていただくことを考えている。

【事務局】（次長兼水道維持課長）

応急給水施設の中に避難所が含まれているかについてであるが、我々は、重要給水施設ということで、まず50か所を耐震化するという施策で動いている。その中身は、広域避難場所、病院、応急救護所、警察、県庁などの防災拠点である。御質問の避難所は、コミュニティセンターなどで徳島市では確か全部で91か所あったと思う。そこに耐震管が届いている所もあるのだが、施策として、まずは50か所を決めて耐震化を進めている。

【B 委員】

ペットボトルの検討から数年経っているので、可能な事業所が増えていたりしないかなという期待も込めて、置いていただけるなら買いたい。あと、徳島市の広域避難場所を調べてみると、地震発生時などにおける延焼火災から危険を避けるための一時的な避難空地を広域避難場所として指定しているということで、一覽で10か所が出てくる。これも優先順位を付けて（耐震化）というところかと思うが、財源的なバランスもとりながら、安心できる避難所環境とか避難場所環境にも水は大事だと思うので、また（耐震化された避難場所が）増えるようなことがあれば情報提供いただけると嬉しいなと思う。

【C 委員】

22 ページの職員数の推移についてであるが、平成26年度から令和6年度にかけてかなりの人数が削減されているが、減ったことによってサービスや様々な対応の低下にならないのか。また、類似事業体が平均91人になっているので、今後もしばらく減少させる予定なのか。

【事務局】（総務課長）

職員数は確かに減ってはいるが、減ることによって定型的な業務を外部に委託している。上下水道局自体が直接サービスは行わないが、外部委託により業務自体は継続して行っているので、サービスが落ちるということは考えていない。

あと、今後も職員数を減らしていくかという御質問であるが、平成 29 年度に立てた目標としては、令和 10 年度に 100 人前後の職員数となるよう削減していくということを目指にしていた。今は定年延長制というものがあるが、目標を立てた時点では 60 歳定年であったので、60 歳以下の職員が令和 10 年度には 100 人程度ということで、現在も続けている。

【C 委員】

サービスは低下しないということで安心した。あと、外部に委託したことで、コストも削減できるのか。

【事務局】（総務課長）

費用対効果はもちろん大切なので、それも考慮しながら外部に委託している。

【D 委員】

今回の審議会の趣旨としたら、財政収支の見通しが今期から赤字に転落することと、それをどのように改善するのかということになると思う。赤字幅の改善や黒字に戻すとなると、収入を増やすか支出を減らすかしかないというのが結論と思っている。そのほかに借入れで補うという方法はあるのだが。

ちなみに、償却（減価償却費）が每期 20 億円あまりある中でいうと、キャッシュフロー自体は実際出ているが、更新基準年数で投資 25 億円というのはおそらくマストなのかなと。ここが退化すると更新率や耐震率などが落ちてくるので、もっと大きなリスクが生じることになる。そういう意味でいうと、人口が減る中で量的に増えることがないとしたら、そこをどう考えるのか。あと、先般紙面にも、三好市、吉野川市、小松島市であったか、水道料金を上げるということが記載されていたが、近隣の地方公共団体との共有や連携はなされているのか。また、こういう状況は徳島市に限った話しではないと思うので、（他の事業体との）事例共有とか、このような取り組みをして改善したというような事例などはあるのか。

【事務局】（経営企画課長）

収支改善に向けて、情報は常に各事業体と共有しており、各事業体も現在、徳島

市と変わらない状況に陥っている。各事業体も料金改定を一つのゴールと考えていると思うが、なかなか改定できていない。

上下水道局の考え方としては、当然料金改定というものは考慮している。ただし、料金改定というだけではなく、料金体系についてもこの審議会を通じて御意見をいただき、それを参考にし、他の事業体の事例も確認しながら取り組んでいきたいと考えている。

【D 委員】

仮に広域化ということになってくると、適宜共有や連携などをされている方がスムーズなのかなと思う。あとは、量が減るのであれば単価を上げるしかないかなと。トプラインを上げるとしたら、もうこれしか方法論はないのかなというところでの質問であった。

なお、参考までに、先ほどのペットボトルの話であるが、当方もビジネスマッチングでボトリングができる会社が徳島にないかと問い合わせをいただくが、水源がブランド化されたような所の水でボトリングしないと、なかなか採算が合わないらしい。あと、水のボトリングは相当難しいらしい。純度というか、少しでも何か違うものが入ったら駄目ということで、通常のペットボトルで飲み物を作るよりも難しいそうで、探してみたがおっしゃるとおり（できる企業が徳島に）なかったので申し添える。

【会長】

各事業体が参考にされるような事例集みたいなのは、今のところ、私の知る限りでは冊子体としては見当たらないので、徳島市が自ら探して調べるしかないかなと思っている。私も勉強させていただくので是非頑張ってもらいたい。

【副会長】

財政収支の見通しであるが、今回は現況についてということで、現在の数字がベースで将来予測した数字としてこういう説明になっていると思うが、私は以前から携わっているので、以前の会議でこのままでは駄目だという話になって、色々とシミュレーションをしたと思う。何年に何%上げて、何年後に何%上げればやっていけるという方向性まで皆で作ったと思うのだが。これだけの方が来てくださっているんで、そこまで御説明して見ていただいた上で、そこから話しを始める方が効率的ではないかなと思った。（そういう説明は）次の回でされるのか。

【事務局】（経営企画課長）

今回は、これまでの取組みの振り返りと、料金のことを財政収支含めて御説明させていただこうと考えている。

副会長には、前回の経営戦略（策定）で御出席いただいたと思うが、その際に、水道事業は令和 8 年度に 13%の、令和 12 年度に 11%の料金改定を実施する予定（シュミレーション）とし、同じように、下水道事業も令和 8 年度と令和 12 年度に、各年度 20%ずつの使用料改定を実施する予定（シュミレーション）としていたが、より経営が悪化している下水道事業を優先して、令和 8 年 4 月 1 日から 17%の使用料改定を実施している。

今後の水道事業に関しては、この審議会を通じて皆さんの御意見をいただいた上で基本計画を作成しようと考えている。その経緯も含めて、次回御説明させていただこうと思っている。

【副会長】

そういうことならいいのだが、触りだけでも皆さんにそういう話しがあった方がいいかなと思った。

【会長】

今回、答申を出すまでに（会議を）6 回。大体は 3 回ぐらいで終わる。6 回（も）やるので、相当丁寧な議論がなされるのかなと。ただ、やはり 6 回といわれても何を議論するのだろうというところは少し見えてもいいかなと思う。（何を議論するのかは）頭の中にあるのか。

【事務局】（経営企画課長）

徳島市は、用途別料金体系を採用している。料金体系には、用途別と口径別の二種類があり、口径別はメーターの大きさによって料金が変わる。用途別は使う用途、例えば家事用、工場用、営業用などによって料金が変わってくる。

他都市には様々な用途があるが、徳島市は大部分が一般用で、あとは湯屋用と特殊用だけであり、ほとんど単一の料金（一般用の料金）でこれまでやってきた。

47 都道府県（の県庁所在地）で口径別でない都市は、徳島市、金沢市、佐賀市、大阪市、岐阜市の 5 つぐらいである。他はほぼ口径別に変わっているので、そういった口径別と用途別の違いや、各シミュレーションの結果をお示しさせていただこうと思っている。

【会長】

水準をこれからどれぐらい上げていくのか、それを何回に分けて上げるのかなどの話しは、会議には含まれていないのか。体系の変更だけなのか。

【事務局】（経営企画課長）

それも含めて考えている。

【E 委員】

今後、企業債で大きなお金を賄っていくという計画で、今までもそうだったのかもしれないが、これはずっと続けていけるものなのか。現実的にこういうもので収入を得ていけるというような計画なのか。

【事務局】（経営企画課長）

以前であれば、投資に対する企業債借入れは 3 億円程度にしていた。

これは企業債残高を減少させるための施策であったが、近年では 3 億円程度にすると建設投資額が足りないので、10 億円少々を借りるようにしてる。ただ、無尽蔵に借りるとなると、今、長期金利が上がっているので、借りれば借りるほど収支が悪くなってしまうという相反することになる。バランスを考えながら最適化を図って企業債を借りるようにしてる。

もし（料金）改定ができたなら、借入れは減らしていく方向で考えている。

【E 委員】

経営改善に向けた取組みとして、スライド 23 で業務の効率化というところがあるが、維持管理業務は効率化が難しいのかもしれないが、徴収業務や窓口業務などはもっと効率化ができるのではないかと思う。よく言うデジタル化や自動化など、具体的に何か取り組んでやっているのか。

【事務局】（経営企画課長）

DX の取組みは遅れている。しかし、来年度から衛星を使った漏水の発見など DX を絡めた事業を予算化しようと考えている。

※DX：デジタルトランスフォーメーションの略。概要は、データとデジタル技術を使って、顧客目線で新たな価値を創出していくこと。【経済産業省：デジタルガバナンス・コード 実践の手引き（要約版）より抜粋】

【事務局】（次長兼水道維持課長）

現在、全国的に衛星を使った漏水調査を行う事業体が多くなっている。

衛星を飛ばして、地中の状況を判定して漏水を検知するというようなシステムを、ここ近年、何社かが取り扱っている。

今までは、割と山間部でどこが漏れているのか全然分からないといった事業体が導入してきたが、最近は国の施策もあって交付金等がいただけるということなので、上下水道局もチャレンジしてみようかと考えている。

（このシステムは）漏水情報のデータと、現在の地盤の情報、以前その土地が何であったのか、池であったのかななどの多数の情報を重ねられるので、そういった情報を重ねて更新優先順位を付けたりするところに発展させればいいかなと考えている。

あと、官民連携のところで、もっと DX をというようなお話もあったが、今、一番分かりやすいのは検針業務かなと思う。

スマートメーターといって、四国電力さんなどは検針員はおらず、電柱に（使用量の）情報を飛ばして電気料金を（算定し）支払ってもらっている。水道においてもそのようなメーターは開発されており、多少なりともそれを導入する事業体もあるが、費用が現価格のメーターとはかけ離れて高いような状況である。我々もスマートメーターの良さというものは十分認識しているが、まだ導入には踏み切れていない。離島や北海道の普段雪が積もる場所など、そういった所では比較的小さい町でも導入しているが、我々の規模で雪も降らないといった状況下においては、試験導入等は何か所かやっているが、今後の課題ということで、進めていく方向で検討している。

【F 委員】

耐震管の件であるが、8 ページのところで、現状（耐震管率が）39.7%で類似事業体よりも低いということで、防災の観点からいうと耐震率が低いというのは非常に怖いところがある。ただ一方で、今後の設備更新などを考えると、いずれダウンサイジングみたいな話しは避けて通れないと思う。要は、あまり（人が）住まない所は、更新を止める…、止めるのは難しいかもしれないが、いずれ廃止になる所などが出てくることを考えると、（配水管）ループなどコアな部分についてはしっかり 100%を目指していくけれども、枝葉の部分については、100%を目指すのではなく、むしろ災害が起こった場合にスピーディーに対応できるような体制を整える方が現実的だと思う。

今見ていると、基本は更新耐用年数などで更新するということだが、優先順位み

たいなものが少し見えづらい部分があると思う。例えば、導水管や送水管というのは、本当は 100%に近い状態でなければならないのではないかと思うのだが、その辺りはどう考えているのか。

【事務局】（次長兼水道維持課長）

御指摘のとおりだと考えている。

8 ページの表にある「基幹管路」と全体の「計」の所に太文字の数字が二つ（上下に）記載されているが、この上の 52.5%（基幹管路の耐震管率）という数字、この部分に今、力を注いでいる。全ての管路を耐震管にすればそれに越したことはないが、費用的にも 100 年、200 年という単位でかかるので効果が出ない。

我々としては、やはり守るべきものを守る、守るべきものを良くしていくというような方向性で考えており、基幹管路の整備を重点的に進めている。ただ、F 委員がおっしゃるように導水管、送水管という部分については我々も危惧している。また、次のページにある浄水施設、配水池も同じで、こういったものも止まれば徳島市の水が止まるという基幹的な施設になる。ただ、配水地においても大きいものから小さいものまで様々あって、守るべき施設を耐震化していく、更新する、耐震補強する、このような方向性で今後も事業を進めていくという考えを持っている。

先ほど財政収支の中でもあった（投資額）年間 25 億円から 30 億円の話しであるが、その中の試算においても、止めていく施設は除いている。「ここは守らなければならない」とか、「ここにはもう一つ（施設が）いるのではないか」といった議論も、今回は料金に関する会議であるが、次期水道ビジョンの中でもお話しをさせていただければと考えている。

【G 委員】

財政収支の見通しを見ていたら、収支がマイナスになって、私達の水道が守られるのかとても心配になる。

それと、水道を使う人が少なくなっているが、水道を運営していく最低限のものは、やはり皆が補填しなければならない（固定費をある程度分担できるような基本料金設定が必要）と思う。

お金が足りないから借りるということも、やはりそれは次の世代に負担を背負わせることになるので、今度、料金体系を考えるとおっしゃっていたが、基本的なものは、やはり皆が守らなければならないのかなという気にはなっている。水道料金が高くなるのは嫌であるが、ただ、（基本料金月額が）600 円いくらというのは安すぎる気がする。

先日、水道管（給水管）が漏れて、（水道料金が）2 か月で5 万円かかった。このとき、業者が検査に来てくれても（漏水箇所が）分からなかった。

そこで、（漏水箇所特定のため）ある業者に5 万円を払って（水道管に）窒素を入れて確認したのだが、その業者はとても忙しそうだった。例えば、上下水道局のサービスとして、（漏水修理に）保険をかけて皆さんから（保険料相当分を料金に上乗せして）いただくとか、早めにチェックができる体制を取るとか、そういう運営方法も考えられるのではないかと。水道料金だけでなくサービスも考えて料金体系を考えると、そういうことができないのかなと思った。

あと、水道管を更新基準年数で更新すると、（法定耐用年数で更新するよりも）水道管の修繕（更新）が少なくなる。それはいいのだが、この更新基準年数が大丈夫なのか分らないところがある。確かに、法定耐用年数は会計上の問題で、残存価格がゼロになるというだけのことなので、実質的にはおそらく更新基準年数で大丈夫なんだろうが、この更新基準年数はどういったもので基準を決めているのか知りたいところではある。この分（更新基準年数に関する）ことと基本料金が安すぎるのではないかと、今後、料金体系を考えてもいいのかなと思う。

【事務局】（上下水道事業管理者）

今、とても重要な御意見をいただいた。14 ページを御覧いただきたいが、基本料金月額が 648 円である。0 立米でも 648 円。そして8 立米まで使用しても 648 円。このような料金体系は、本当にいいのかと。

水道施設を維持管理するための固定費は必要であるため、例えば、（1 立米から従量料金をいただき）固定費として 500 円をいただくとか、このような料金体系を考えていかなければならないのかなと。この審議会の趣旨は、まずスタートがこの部分であると考えている。

18 ページを御覧いただきたいが、核家族化になり世帯数は増えている。1 世帯に住んでいる人は、大きな家で、以前は4 人から6 人程度であったが、子供さんが独立して1 人から2 人の住人になっている。また、新しい世帯ができ、子供さんもいずれ独立をする。料金体系は、この点にターゲットを当てて組み直さなければならないのではないか。これらの議論を審議会で行いたいと考えている。

また、徳島市の水道料金は高いのだろうか。15 ページを御覧いただきたいが、徳島市は、20 t 当たり1 か月で 2,437 円。これは4 人程度の方が住んでいるご家庭で、20 t つまり 20 立方メートルで、これを20 で割ると、1 立方メートル 120 円となる。1 立方メートルは、1 メートル角のサイコロのことである。1 リットルのペットボトル 1,000 本分を 120 円でご家庭にお届けしている。ご家庭の蛇口を

開けるだけで、水道水が届く。この 120 円が高いのだろうか。これを改善する方向で、議論しなければならないと考えている。

広域化の大きな話しもあるが、まずは、徳島市として自立していかなければならない。

他方で、様々な官民連携が大切になってくる。今後は、DX 等を活用していかなければならないと考えている。水道施設は、機械、装置を持っており、生産性を上げることができる。人の関わりを少なくし、機械が作業することも考えていかなければならない。こうした点は、次期ビジョンの中でお話しをさせていただくことになる。

以上、気付いた点について、意見を述べさせていただいた。

【事務局】（次長兼水道維持課長）

先ほどの御質問の中にもあったとおり、法定耐用年数 40 年というのは、財政上というか減価償却をするための 40 年であり、実際に 40 年経てば水道管ってもうボロボロになってしまうのかというようなことではない。

更新基準年数というのは、全国各地の水道事業体で様々な議論をして、各事業体によって少しずつ違いがある。

11 ページに、ダクタイル鋳鉄管括弧耐と書いてあるが、我々は、耐震管であれば 80 年はもつのではないかという更新基準年数で動いている。

我々は、耐震管を平成 12 年から導入しているのだが、ダクタイル鋳鉄管の耐震管は、昭和の終盤頃からあって、その管路については、まだ他の事業体も使用している。昭和 63 年だからもう 40 年ほどになる。日本全国で何度か大きな地震があったが、耐震管が基準どおりに施工できていれば、今まで被害はゼロである。多少なりとも被害があった箇所はあるのだが、そこは施工不良の問題であって、耐震管というものは大きな地震でも被害がない。大きながけ崩れがあっても水道管だけぶら下がっていたりと、非常に優れた管である。メーカーであれば 100 年ぐらいはもつのではないかと。他の事業体によれば、更新基準年数はダクタイル鋳鉄管で 120 年ぐらいはもつのではないかという事業体も実際ある。

我々も、この更新基準年数を考えるときに、様々な事業体とも情報共有している。反対に言えば、こうしないと財政がもたないということも（要素の）一つではある。40 年で替えていけば一番良いのだが、それをやったときの水道料金が一体いくらになるのかというようなところもある。

ただ、実際にこの更新基準年数を伸ばしたからといって、施設が非常に危険な状態で運用していくというような考えでは動いていないので、そこは御安心いただけ

ればと考えている。

【会長】

この更新基準年数が、先ほどの DX の衛星を使ったシステムを入れると変わるという理解でよいか。

【事務局】（次長兼水道維持課長）

先ほど申し上げたように、本当にやらなければならない所にそういった事業を持っていけるのではないかとということで、これから本当に（衛星を使ったシステムの導入を）考えていきたいと思っている。

【H 委員】

現在、私が運営している施設の中に給水スポットを（上下水道局に）設置していただいている。使われる方には、冷たい水を飲まれて「徳島市の水は美味しいよね」というようなことを言っている。

先日は、九州の宮崎の方に「徳島市の水道代はどのくらい」と聞かれ、「ウチは夫婦で住んでいて 3000 円弱やな」みたいな話をすると、「安い、宮崎の半額やな」みたいなことをおっしゃっていた。

次に、料金の安さや、あるいは水の豊富さを PR すると良いのではないかなと思う。香川にも行っているが、香川の皆さんは「徳島は吉野川があっていいよな」というような話をいつもされる。

徳島市の水が吉野川の恵みであり、その水が 90%以上が吉野川の水ということもあるので、もっともっと広報をすべきなのかなという感じがする。

家庭用と事業所の割合は分からないが、例えば、事業所がたくさん（水を使っ、それで食品が出ているのであれば、回り回ってその食品の PR をすることで食品の販売量が増えて、なおかつ、その製造の元である水の使用量が増えるというような、そういう考え方もあるのかなと。ふるさと納税でオロナミン C が数年前に人気 No.1 で、それを作ってるのは徳島市の水である。あるいはポカリスエットが、かつては吉野川の水で作っているというコマーシャルが流れた。

このように、物を売ることによって徳島市の水道使用量が増えるというような、そういう考え方でも良いのかなと思う。

水道の節水も大切だが、回り回って徳島市の水道があればこそ、そういった商品の販売が増える、あるいは商品の流通が増えるという、そういう考え方にいたってもいいのではないかなという感じがした。

	シビックプライドで徳島市の水道の良さというのを PR すべきではないかなと思った。 【事務局】（経営企画課長） 是非参考にさせていただきたいと思う。 【会長】 最後のまとめとなるが、やはり徳島市の水道を将来どうするのか。ここにかかっていると思う。 現状を維持するのか、更に良くするのか、F 委員がおっしゃったように、手をかけずに、お金もかけずに、壊れたら直すというので我慢してもらうのか、サービスの質を落とすのか。 要するに、将来どうするかに対してどれだけのお金がかかり、結果的にそれを料金として誰からどれぐらいいただくのか。このような話しをこれから 6 回かけて丁寧に丁寧にやっていただけるということなので、是非期待したいと思う。あと、6 回の（会議の）中身をどこかのタイミングで教えていただけたらと思う。 皆さん、自分たちが使うお水なので、将来どうあって欲しいか。お金をかけずにというところも、ここまでなら受け入れられるとか、そういった話しをこれから皆さんとやっていきながらも、でもやはり料金は上げていかなければならないということになるので、そこもしっかりと議論させていただければと思う。 以上をもって議事を終わらせていただきたい。 本当にたくさんの御意見をいただいた。御審議、感謝申し上げます。
5 施設見学	➡（事務局職員の引率により浄水処理施設の見学）
6 閉会	➡（閉会に際して事務局から次のとおり事務連絡） ① 第 2 回審議会は、今年の 10 月頃の開催予定であること。 ② 次回以降の会議は、上下水道局本庁舎にて開催予定であること。